



ASJA News Letter

Vol.24 December, 2012



アスジャ・インターナショナル事務局 ASJA (Asia Japan Alumni) International
〒169-0074 新宿区北新宿3-22-7 東京日本語教育センター内
3-22-7, Kita-Shinjuku, Shinjuku-ku, Tokyo 169-0074 JAPAN
TEL: 03-5338-1285 FAX: 03-5338-1286
URL: <http://www.asja.gr.jp> E-Mail: info@asja.gr.jp



かんぶ かい ベトナムASCOJA幹部会 へいせい ねん がつようか すい 【平成24年8月8日(水)】

へいせい ねん がつようか すい かんぶ かい
平成24年8月8日(水)、ベトナム・ハノイにて、ASCOJA幹部会が
かいさい かんぶ かい
開催されました。グエン・ゴック・ビン ベトナム元日本留学生協会
かいちょう ぎちょう もと
(JAV) 会長・ASCOJA議長のもと、ベンジャミン・ラウレル フィリピン元
にほん りゅうがくせい れんめい かいちょう ふくぎちょう ぎちょう
日本留学生連盟 (PHILFEJA) 会長・ASCOJA 副議長 (アスジャ 議長)、
かんぶ かっこく り じ にほんがわ ざい にほんたいしかん
ASCOJA 幹部、各国アスジャ理事、日本側からは、在ベトナム日本大使館
かみがきれい こにとうしよきかん さとう じ む そうちようおよ しょういん めい まつもとときよし
上垣礼子二等書記官、佐藤アスジャ事務総長及び職員1名、松本 清
にほん じ む きよくちよう しゅつせき
ネットワーク日本事務局 長が出席しました。



グエン・ゴック・ビン ベトナム元日本
留学生協会 (JAV) 会長・ASCOJA 議長

ベトナムにおいて初めてのASCOJA幹部会開催であり、ASEAN設立45
しゅうねんきねん び どうじつ がつようか あ どうじつ ご おこな
周年記念日(同日8月8日)に合わせたものです。当日午後に行われた
かんぶ かい へいせい ねん がつむいか ようか かいさい
ASCOJA幹部会では、平成25年9月6日～8日にベトナム・ハノイで開催
だい かい そうかい
される第20回ASCOJA総会のテーマ「ASCOJA towards the Cooperation
しめ ないよう
and Development of ASEAN+Japan」が示されて、スケジュールや内容を
かくにん らいねん にほん がいこうかんけいじゆりつ しゅうねん きねん
確認しました。来年は、日本ベトナム外交関係樹立40周年を記念して、
にほん ゆうこうねん さまざま かんれん かいさい だい かい
日本ベトナム友好年として様々な関連イベントが開催され、第20回
そうかい かさ い ぎ ぶ か いちねん おも
ASCOJA総会とも重なり、意義深い一年となるものと思われます。また、ラ
ふくぎちょう ねん ねん ねん れきし
ウレル副議長により、1977年から2013年までのASCOJAの35年の歴史につい



ベトナムASCOJA幹部会出席者一同

せつめい そんぞく はな あ じむきよく そんぞく む
での説明がなされました。アスジャの存続についても話し合われ、アスジャ事務局より、アスジャの存続に向けての
さいきん うご およ じぎょうかつどう ほうこく
最近の動き及びアスジャの事業活動についての報告がなされました。

とうじつ ごぜんちゅう ゆうこうきようかい
なお当日の午前中は、ベトナムユニオン友好協会 (Vietnam Union of Friendship Organizations VUFO) Vu Xuan
かいちょう めんだんおよ どうきようかいしゅさい せつりつ しゅうねんきねんしきてん さんか よる
Hong (ヴー・スアン・ホン) 会長との面談及び同協会主催のASEAN設立45周年記念式典に参加しました。夜に
もとにほんりゅうがくせいきようかい しゅさい ゆうしよくかい しょうたい
は、ベトナム元日本留学生協会 (JAV) 主催の夕食会に招待されました。

しずおかけんふくで

およ とちぎけんおやま

静岡県福田ホームステイ及び栃木県小山ホームステイ

こくひりゅうがくせい めい たいしよう しずおかけんふくで およ とちぎけんおやま がつ
アスジャ国費留学生6名を対象に、静岡県福田ホームステイ及び栃木県小山ホームステイを8月にかけて、それ
いつかかんじつし とお がくせい にほん せいかつしゅうかん ぶんか たい りかい ふか
ぞれ5日間実施しました。ホームステイプログラムを通して、学生は日本の生活習慣や文化に対する理解を深める
とく らいにち にほん ひとりぐ にほん かぞく あたた う い
ことができました。特に来日してから日本で1人暮らしをしていたので、日本の家族に温かく受け入れてもらっ
あらた ほんごく じぶん かぞく あ がたみ つうかん こころやさ にほん かぞく じぶん だい かぞく
て、改めて本国にいる自分の家族の有り難味を痛感するとともに心優しい日本の家族が自分の第2の家族であると
かん かんけいしや がくせい ひょうばん たか だいこうひょう うち しゅうりよう
感じたようです。また関係者からの学生の評判も高く、大好評の内に終了することができました。

しずおかけん ふく で
静岡県福田ホームステイ
へいせい ねん がつ にち もく か げつ
【平成24年8月16日(木)～20日(月)】

さん か しや
◆参加者◆

へいせい ねん ど が つ き こく ひりゆう がくせい めい
平成24年度4月期アスジャ国費留学生（3名）



さくねんど どうよう ことし しずおかけん い わ た し きょうりよく え
昨年度と同様、今年も静岡県磐田市にて、ボランティアの方々の協力を得て、
ホームステイプログラムを実施しました。これはアスジャ国費留学生のために作ら
れたプログラムで、終始磐田市ボランティアの方々が付き添って行われました。

しよにち きゅうみつがっこう けんがく にほん むかし きょういくせいど まな こ いだまさといわたし きょういくちやう ひょうけい
初日は、旧見付学校を見学し日本の昔の教育制度を学びました。その後、飯田正人磐田市教育長への表敬
ほうもん おこな 訪問を行いました。飯田教育長は英語で質問を準備するなど留学生をとて暖かく迎え入れて下さいました。
がくせい すこ きんちやう いだきやういくちやう せつきよくてき いけん こうかん おこな よくじつ かお はいぶつかん
学生も少しずつ緊張がほぐれて、飯田教育長と積極的に意見交換を行いました。翌日は、香りの博物館、
しんぞうけいそうぞうかん せんじゅしゅぞう おおつかせいやくかぶしき ふくでこう けんがく せんじゅしゅぞう じっさい さけ つく ところ
新造形創造館、千寿酒造、大塚製薬(株)、福田港などを見学しました。千寿酒造では実際にお酒を作っている所を
けんがく さけ で き さまざま だんかい がくせい おどろ おおつかせいやく
見学して、お酒が出来るまでに様々な段階があることに学生は驚いていました。また大塚製薬ではポカリスエット
にんき りゆう し で き みつかめ よつかめ かく す りゆうがしどう ふうしゃ ちゃばたけ
の人気の理由を知ることが出来ました。3日目、4日目は各ホストファミリーと過ごして、竜ヶ岩洞や風車、茶畑
などを訪れて、楽しい思い出をたくさん作ることができました。特に日本のお母さんが作る家庭料理の美味しさに
よろこ さいご ひ こども じりつしえんしせつ ほうじん おとず こども いっしょ なが
喜んでいました。最後の日は、子供のための自立支援施設であるNP0法人ここつみを訪れて、子供たちと一緒に流
わ たいけん
しそうめんやスイカ割りを経験した



えほん よ き たの ち
り、絵本を読み聞かせたり、楽しく
こうりゆう
交流することができました。

写真後列左から3人目：飯田正人磐田市教育長

学生の感想

【タイ女子学生】

静岡県にいて5日間本当に毎日幸せでした。ホストファミリーのお父さんとお母さんは私の本当の両親みたいにお世話してくださり本当に感謝しています。お父さんは毎日運転して下さい、お母さんはお料理が上手なので、毎日いっぱい食べさせてくれたりしました。お祖父さんとお祖母さんも親切で、孫たちも可愛くて毎日一緒に遊んでくれました。また山中さんのお家では、子供たちと一緒に踊ったり、歌を歌ったりして楽しい時間を過ごしました。素麺とスイカ割りも初めてだったので、良い体験になりました。

【フィリピン男子学生】

私たちは飯田正人磐田市教育委員長への表敬訪問をし、自己紹介と今回の福田ホームステイプログラムで期待することなどを話しました。私は飯田教育長が若い世代を海外へ派遣して、海外に触れさせることによって将来の重要人物として育てているということを知りました。飯田教育委員長はとても歓迎してくれて、日本語を話せない私に英語で話しかけてくれて、とても感謝しています。

このプログラムは、本当の意味でのホームステイ体験でした。日本語が分からない私のためにジェスチャーで、意思疎通を図ろうとしてくれた家族に感謝しています。とても大変でしたが、日本の文化を理解する上で、とても良かったです。（※アスジャにて翻訳）

【シンガポール女子学生】

ホストファミリーと竜ヶ岩洞へ行きました。息を飲むような鍾乳石などを見ることができる有名な観光名所だそうです。鍾乳洞を見た後、川を見渡せる丘の上でランチを食べました。日本は自然の美しさに恵まれた国だと思いました。ホストファミリーが私を家族の一員として迎え入れようとしてくれたり、大家族の中で心地よいかどうかを確認してくれたりしたことに、とても感謝しています。ホストファミリーに対しては彼らが私に対して心を開いてくれるのと同じように自分も心を開くことが大切だと思いました。（※アスジャにて翻訳）

◆参加者◆ 平成23年度10月期アスジャ国費留学生（1名）
平成24年度4月期アスジャ国費留学生（2名）

本年度、初めてアスジャ国費留学生が小山国際交流会おいふぁの主催するホームステイプログラムに参加しました。このプログラムにはアスジャ国費留学生3名の他、宇都宮大学の留学生5名も参加していて、他の大学生との交流も生まれました。

初日は、工房思川 桜で結城 紬の糸紡ぎや染物体験をしました。結城 紬は平成22年にユネスコ無形文化遺産に登録されています。職人が全て手作業で行っていることが印象深く、職人と同じように糸紡ぎを実際に経験することができて勉強になったようです。また白いハンカチを桜色に染めて記念の品としていました。その後、絹公民館で歓迎会が行われて、参加者との良い交流の場となりました。翌日は、書道体験をして、楽しそうに取り組みながら思い思いの言葉を書きました。3日目はホストファミリーと過ごして、日光や宇都宮を訪れたりしました。4日目は、午前中に料理教室で手毬寿司を作って、午後は、日本の詩に親しんでもらうため、北原白秋の詩「祭り」を皆で群読しました。最後の日は、森永製菓工場を見学して、様々なお菓子の製造過程を見ることが出来て勉強になったようです。その後、お別れ会が小山市立中央図書館で行われて、学生は5日間のホームステイを振り返っての感想、ホストファミリーへの感謝の思いや日本文化体験の感想について述べました。皆、ホストファミリーと別れるのが寂しいようで、次の訪問を約束しました。また、他の大学の留学生とも交流することができて貴重な経験となりました。



学生の感想

【タイ女子学生】

絹公民館での歓迎会は様々な方がいらっしゃいました。私はアスジャ留学生の代表として、スピーチをしました。アスジャ以外の友達は全員初対面の方なので、どのようなスピーチをしたらいいのか日本語の面でかなり緊張しましたが、皆さん笑顔で聞いてくれたので安心しました。

私のお母さんはいつも「うちは今一人暮らしなので、家族ではないかもしれない」とおっしゃいましたが、お母さんの家はとても暖かいと思います。家族はメンバーの人数が大事なのではなく、家族内の理解や家族に対して目をかけることが大事だと思います。泊まらせてくれた私のお母さんはとても優しく、タイにいるお母さんの優しさと同じように感じられて、まるで本当の「家族」のようでした。

【カンボジア女子学生】

私は日本語が上手く話せないの、最初このプログラムに参加する時とても不安に思っていたのですが、それは間違いでした。文化や言語の違いがありましたが、私達はいいい友人になれたと思います。私のホストファミリーはいつも美味しい料理を作ってくれました。庭から唐辛子を取ったり、一緒にお皿を洗ったり、一緒にテレビをみたりしたことが良い思い出です。ホストファミリーはとても親切で、いつでも好きなときに家に泊まりにいらっしゃいと言ってくれました。

おいふぁのスタッフもとても親切でフレンドリーでした。このプログラムを通して、日本文化と伝統について学び、

またどんな状況でもベストを尽くそうと努力する姿勢が大事であることが分かりました。これからも多くのプログラムに参加してみたいですし、同じようなプログラムを母国でやりたいと思いました。（※アスジャにて翻訳）

【ミャンマー男子学生】

私は最初、書道は簡単だと思っていましたが、実際とても熟練した技術が必要で、筆を上手に動かす必要があることが分かりました。また書道の先生のようなご年配の方が活動的なのがとても興味深かったです。私は彼らの暖かい心遣いを感じることができました。ホストファミリーは大聖の音楽発表会に連れて行ってくれました。とても素晴らしい音楽会で、私は12歳位の小さな子どもが、とても上手に楽器を演奏しているのを見て驚きました。また、ホストファミリーは太平山という山に連れて行ってくれました。何段もある階段を登るのがとても大変でしたが、頂上はとても静かで美しく、神社がありました。私たちは伝統的な日本の信仰と儀式について学ばなければいけないと感じました。

（※アスジャにて翻訳）

な す か し 那須甲子ボランティア へいせい ねん がつよつか か なのか きん 【平成24年9月4日(火)～7日(金)】

◆参加者◆ 平成21年度アスジャ奨学生（2名）
平成23年度4月期生アスジャ国費留学生（2名）

国立那須甲子青少年自然の家において、「外国青年のボランティア実践研修」に参加しましたが、特記すべきは、アスジャ国費留学生の初めての参加でした。同施設の職員として実際に働くボランティア体験を通じて、日本の青少年教育施設の役割等を学ぶだけでなく、日本の高校生や小学生たちとの交流も深めることができました。また、同自然の家の新山雄次所長には、「日本における青少年教育施設の果たす役割」と題する講義をしていただき、その果たすべき役割や自然を活用した教育活動の重要性についての理解を深めることができました。さらに、東日本大震災の際に同施設が避難所として多数の被災者の受入を行ったときの状況、及び福島県の次世代を担う小学生を対象とした15日間のなすかしドリームプロジェクトの様子についてのビデオ映像を鑑賞して、学生達は、被災者の方々の受入における職員の方々の献身的な尽力、また子供たちに託された将来への思いに感銘を受けていました。

学生は、今回の研修での活動について初めての経験が多くて、一生忘れられない思い出となったようです。豊かな自然に囲まれた青少年自然の家で過ごしたことにより、自然についてももう一度考えるきっかけとなったようです。また同施設が子供達に自然の大切さを教えて、青少年の育成に適している場所であることを理解して、同様の施設を母国にでも願う学生が多かったです。そしてボランティアを通して仕事の効果的な運営方法や施設環境の配慮された維持・保全も学べたようです。



中央：新山雄次所長

学生の感想

【マレーシア女子学生】

ボランティア活動を通して、時間と労力を他の人のために使うことは幸せなことであり、また自分が社会にどのような貢献ができるかが大切であると思った。小中学校の見学を通して、学校の生徒の人数が少なくても良い勉強ができる環境が整えられていたので、教育は誰に対しても平等であるべきだと改めて思った。さらに現代では都会に住んでいる人が多いが、自然の重要さを教えるこのような施設が、自分の国にもあればとても役立つと思った。研修を通して、日本の小中学校の教育と国の将来の人材の育成について学ぶことができて貴重な経験となった。

自然の美しさや優れた施設、優しいスタッフの笑顔に囲まれながら、研修を無事終わることができました。様々な活動を経験することにより、日本の教育制度や日本人の働く姿勢、他人に対する思いやりなどを勉強しました。特に、チェックアウト点検や野外炊飯点検などをすることで、普段は点検される側である私たちがスタッフになり、子供たちに指導することは新鮮な気持ちでした。次に来所する人が気持ちよく利用できるようと、スタッフと利用した子供たちが後片付けに協力してくれたお陰だと実感しました。お陰で、気持ちよく働くことができました。また施設のスタッフの方々は、少人数でありながら一生懸命に働く姿勢に感動しました。

新山所長のご講義、そしてビデオ鑑賞がとても印象に残った。ビデオを2本見たが、1本目は、東日本大震災の際にこの施設が避難所として多くの被災者の受入を行ったときの状況を紹介しており、2本目は、福島県の将来を担う小学生を対象とした15日間のなすかしドリームプロジェクトの様子についてであった。母国もスマトラ沖地震によりたくさんの犠牲者が出たので、所長のお話とビデオ映像はとても感動的で心が揺さぶられた。そして、小学生に自立、勇気とチャレンジする心の大切さを教えるなすかしドリームプロジェクトは母国でも参考にしたい。（※アスジャにて翻訳）

白河実業高校を訪れたが、この高校は、農業科・工業科・商業科に分かれており、それぞれ専門技術や知識を身につけることができる。施設が優れていて、また実務を勉強できることに驚いた。自分の国では、同様の実業高校がないため、高校卒業後すぐに就職したい学生にとっては、選択肢が広がって良いと思った。また、野外冒険ハイキングやキャンプファイヤーでの小学生との交流では、彼らの勇気、我慢強さが印象的だった。（※アスジャにて翻訳）

平成24年10月からインドネシア、マレーシア、ベトナムより新たに3名がアスジャの活動に加わりました。

ASJA News Letter Vol.24 December, 2012 Page5

こくせき せいべつ じょしがくせい
①国籍・性別： マレーシア女子学生

ざいせき な ご や だいがくだいがくいん
②在籍： 名古屋大学大学院

せんもん きょういふ
③専門： 教育

きょうりくろん じつむ か ち はんだん えいきょう う しん きょうしつない そと こと こうどう さまざま
教育理論や実務は価値判断の影響を受けるものと信じられており、それは教室内や外での異なる行動や様々な
じょうきょう はんえい ぶんか えいきょう ふく わたし せんこう こと ぶんかてきはいけい も がくせい てき じゆぎょう
状況を反映している文化の影響を含めます。ですので、私の専攻は異なる文化的背景を持つ学生に適した授業
かんが だ
を考へ出すことです。

じ こしょうかい にほん ひと ていじ うんこう きゅうこうでんしゃ こうそう あか かざ
④自己紹介： 日本は、ほとんどのの人にとって、定時に運行される急行電車、高層ビルの明り、きれいに飾られたデ
パートといったイメージがあると思います。しかし私は日本に足を踏み入れてから、これら以上のものがあることが
わ にほん しんせつ ひとびと す でんとう げんだい うつく く あ ばしよ わたし
分かりました。日本は、親切な人々が住んでいて、また伝統と現代が美しく組み合わせさっている場所です。私は、
きょういふ だいにげんご えいごきょういふ がくしごうおよ しゅうしごう しゅとく あと うんよ もとりゅうにちがくせいきょうかい
教育（第二言語としての英語教育）の学士号及び修士号を取得した後、運良く、マレーシア元留日学生協会
すいせん う にほんせいふもんぶかがくしょう しょうがくきん ねん がつ う はじ わたし たんけん たび
（JAGAM）の推薦を受けて、日本政府文部科学省の奨学金を2012年10月から受け始めました。ここから私の探検の旅
は ざいがくなか さまざま きかん ひじょうきん せんせい はたら きょういふ くに はってん じゅうよう
が始まりました。マレーシア在学中、様々な機関で非常勤の先生として働いていました。教育は国の発展に重要な
やくわり は にほん わたし せんもんぶんや かん ちしき ふか さいてき くに おも にほん こと
役割を果たすので、日本は、私の専門分野に関する知識を深めるために最適な国だと思います。なぜなら日本は、異
きょういふ よ ぶぶん じこく きょういふ てきよう
なる教育システムから良い部分を自国の教育に適用しているからです。

しゅみ わたし にほん けんきゅう ふか えら かずすく こうん がくせい ひとり しょうがくきん う
⑤趣味： 私は、日本で研究を深めるために選ばれた数少ない幸運な学生の一人です。ですので、この奨学金を受
けるとき、誇らしいという気持ちだけではなく、この奨学金を最大限に活かさないといけないという責任も感じまし
た。この奨学金を通して、人々の心に触れることができましたと思います。

きょうみ にんげん にんちてきおよ しゃかいてきそくめん とく こども きょうみ も こども こうどう きょうみぶか
興味： 人間の認知的及び社会的側面、特に子供に興味を持っています。子供たちがどのように行動するのか興味深い
わたし おとな こども いっしょ ある た と じぶん まわ かんさつ おも
です。私たち大人は、子供と一緒に歩くまで立ち止まって自分たちの周りをよく観察することをしないと
こども こうきん つよ ちゅういぶか しょうじき いっぼう おとな せかい な にちじょう
子供は、好奇心が強く注意深く、また正直であります。一方、大人はこの世界に慣れてしまっているの、日常
せいかつ こま おも い とお こうふく ほんとう
生活の細かいことをおろそかにしがちだと思います。ウィリアム・モリスが言っている通り、「幸福になるための本当
ひけつ にちじょうせいかつ ささい ぶぶん じゆんすい きょうみ も
の秘訣は日常生活のすべての些細な部分にまでも純粋な興味を持つことである。 “The true secret of happiness
lies in taking a genuine interest in all the details of daily life.”」

しゅみ どんしよ うた た ひと み にんげんかんさつ
趣味： 読書、歌うこと、食べること、人を見ていること（人間観察）

にほんりゅうがくなか
⑥日本留学中にやりたいこと：
にほんじん せいかつ きょういふ まつり しゅうきょう かてい にほん しょくぶんか りょうり さどう にほん でんとうおよ
日本人の生活（マナー、教育、祭り、宗教、家庭）、日本の食文化（料理、茶道）、日本のファッション（伝統及
げんだい にほん げいじゆつ おんがく けんちく ぶんがく
び現代）、日本の芸術（音楽、ダンス、建築、文学）（※アスジャにて翻訳）

こくせき せいべつ じょしがくせい
①国籍・性別： ベトナム女子学生

ざいせき とうきょうだいがくだいがくいん
②在籍： 東京大学大学院

せんもん けいかんせいたいがく がく じぞくかのうせいかく
③専門： 景観生態学、サステナビリティ学（持続可能性科学）

えんかいぶ けいかんせいたいがく ゆた きこうへんどう かんきょうもんだい えいきょう ぜいじゃく かんきょう
ベトナム沿海部は、景観生態学において豊かですが、気候変動や環境問題の影響によってとても脆弱です。環境
もんだい えんがんせいたいけい せいじゃくせい ふ じぞくてきはってんおよ かいふくりよく よわ けいかんせいたいがく
問題によって、沿岸生態系の脆弱性が増やし、また持続的発展及び回復力が弱まっています。よって、景観生態学の
ぜいじゃくせい へ きこうへんどう じぞくてきはってん じゆんのう とうきょうだいがくだいがくいん けんきゅう おも
脆弱性を減らし、また気候変動を持続的発展に順応できるよう、東京大学大学院で研究をしたいと思ひます。

じ こしょうかい とうきょうだいがくだいがくいん けんきゅうせい まえ こっかだいがく
④自己紹介： 東京大学大学院の研究生になる前に、ベトナム国家大学ハノイ（Vietnam National University,
けんきゅうしやおよ きょういふじしゅ きこうへんどうおよ しぜんさいがい えんかいぶ てんねんしげんおよ けいかんせいたいがく
Hanoi）で研究者及び教育助手でした。気候変動及び自然災害によるベトナム沿海部の天然資源及び景観生態学への
えいきょう けんきゅう おこな けんきゅう すず てんねんしげん ぜんぼん とく けいかんせいたいがく
影響について研究を行っていました。研究を進めていくうちに、ベトナムの天然資源の全般、また特に景観生態学
きこうへんどうおよ しぜんさいがい おお えいきょう う わ こくさいてき だいがく とうきょう
は気候変動及び自然災害によって大きな影響を受けていることが分かりました。ですので、国際的な大学として東京
だいがく けいかんせいたいがく けんきゅう ふか おも とうきょうだいがく がく じぞくかのうせいかく
大学で景観生態学について研究を深めたいと思っています。東京大学で、サステナビリティ学（持続可能性科学）
さら べんきょう にほんせいふもんぶかがくしょう しょうがくきん う めぐ おも
を更に勉強するために日本政府文部科学省の奨学金を受けることができたことは、とても恵まれていると思ひます。

せんこう けいかんせいたいがく ちょうさのうりよく ふか しょうらいじぶん だいがく がく じぞく
専攻している景観生態学について調査能力を深め、また、将来自分の大学におけるサステナビリティ学（持続
かのうせいか がく かんけい きょういふ こうけん おも
可能性科学）に関係する教育プログラムに貢献することができると思います。

⑤趣味： 旅行と料理が好きです。旅行することで、景観生態学について、また人と自然との関係についてより理解を
しゅみ りょうこう りょうり す りょうこう けいかんせいたいがく ひと しぜん かんけい りかい
ふか りょうり わたし かぞく けんこう しあわ だいじ
深めることができます。料理は、私と家族の健康と幸せのために大事です。

⑥日本留学中にやりたいこと： 日本での留学中、アスジャによって開催される日本文化体験活動やASEANの元日本
にほんりゅうがく なか かに やりた いこと 日本での留学中、アスジャによって開催される日本文化体験活動やASEANの元日本
りゅうがくせい きょうかい かんけい かつどう さんか おも たと にほんご しょうりょうこう
留学生協会に関係する活動に参加したいと思います。例えば日本語コースや小旅行などです。（※アスジャにて翻訳）

だい かい にほんせいかつたいけんけんしゅう きょうと なら 第13回アスジャ日本生活体験研修：京都・奈良 へいせい ねん がつ にち もく にち にち 【平成24年10月25日(木)～28日(日)】



写真：事前勉強会の様子

だい かい にほんせいかつたいけんけんしゅう ばく か について きょうとふ なら けん
第13回アスジャ日本生活体験研修は、3泊4日の日程で京都府と奈良県において行われました。アスジャ
しょうがくせい めい いんそつ さとうじ む そうじょう めい さんか こんかい けんしゅう いきさき なら きょうと
奨学生13名と、引率として佐藤事務総長、スタッフ3名が参加しました。今回の研修の行先として奈良・京都
えら こだい きんだい にほん れきし しゅうぶたい ねん なら へいじょうきょう きず てんのう
を選んだのは、古代から近代まで日本の歴史の主要舞台であったからです。710年に奈良に平城京が築かれて天皇
ちゅうしん りつりょうたいせい とのの せいきすえ きょうと へいあんきょう ねんいじょう あいだ てんのうせい ちゅうしん
を中心とする律令体制が整い、8世紀末には京都に平安京がおかれ、1000年以上もの間、天皇制の中心として
にほん しゅと なら きょうと かくじだい れきしてきけんぞうぶつ しせき てんざい こくほう じゅうようぶんかざい きちよう
日本の首都でした。奈良・京都には、各時代の歴史的建造物や史跡が点在しており、国宝や重要文化財など貴重な
ぶんかざい かずおお とく ほうりゅうじ とうだいじ とうしょうだいじ とうじ きよみずでら てんりゅうじ きんかくじ にじょうじょう せかいぶんかいさん
文化財も数多く、特に法隆寺、東大寺、唐招提寺、東寺、清水寺、天竜寺、金閣寺、二条城などは世界文化遺産に
とうろく きょうと まちや でんとうてき まちな のこ あらしやま しぜん ふうけい うつく
も登録されています。京都には、町家の伝統的な町並みも残されており、また嵐山をはじめ自然の風景も美しい
にしじんおり きょうせんす でんとうこうげいさんぎょう さか
です。西陣織や京扇子などの伝統工芸産業も盛んです。

このように、奈良・京都は、日本人の心のふるさととすることができ、日本の歴史を理解する上で、奈良・京都
けんしゅう ふか かつ
への研修は不可欠なものです。

こんかい けんしゅう さきだ がつ か ど じぜんけんしゅうかい とうきょうにほんごきょういふ おこな けんがく
今回も研修に先立ち、10月6日(土)に事前研修会を東京日本語教育センターにて行いました。見学を
よてい ぼしよ れきし かくじ しりょう つか はつびょう こじん はいふ
予定している場所や歴史などについて各自パワーポイント資料を使いながら発表して、個人レポートも配布しまし
がくせい はつびょう あと じぶんたち きょうみ はな あ おこ けんしゅうご
た。また、学生による発表の後、自分達の興味あるテーマについて話し合いを行なって、研修後のグループレポ
わ き こんかい けんしゅう なに まな せいか え
ートのテーマとグループ分けを決めました。さらに、今回の研修で何を学びたいか、どのような成果を得たいのかに
ほうふ かくじていしゅつ けんしゅう いっそうみの ゆた
つについての抱負も各自提出をさせたことで、研修を一層実り豊かなものとなりました。

ぜんについて とお さいしゅうび ごぜんちゅう あめ みま きほんてき おだ きこう めぐ ぜんこうてい ぶじ
全日程を通して、最終日の午前中だけ雨に見舞われましたが、基本的には穏やかな気候に恵まれ、全行程を無事
お しんかんせん いどう きょうとおよ なら い げんち ぜんこうてい
終えることができました。また、新幹線で移動したことで京都及び奈良に行くことができ、現地ではほぼ全行程を



左から：専門ガイドさんの説明を聞く学生達、ガイドさんの指示に従って二条城の鶯張りの仕組みを見る学生達、法隆寺中門前
にて、日本の庭園についての説明を聞きながら天龍寺の曹源池庭園を眺める学生達

いどう きかく も だくさん かずおお ばしよ おとず
バスで移動することによって、企画が盛り沢山で数多くの場所を訪れることができました。
こんかい けんしゅう とお じん じんじや れきし ぶんかいさん おくぶか ぎじゅつりよく たか ほうりゅうじ どうだいじ どうしょうだいじ
今回の研修を通して、寺院や神社などの歴史文化遺産の奥深さや技術力の高さ（法隆寺、東大寺、唐招提寺、
きよみずでら とうじ にしほんがんじ てんりゅうじ きんかくじ にじょうじょう きたのてんまんぐう しぜんけいかん うつく あらしやまんざく まな
清水寺、東寺、西本願寺、天龍寺、金閣寺、二条城、北野天満宮）や自然景観の美しさ（嵐山散策）を学ぶことが
できました。

また、町家の講義・案内、大徳寺大仙院の座禅体験や京扇子の上絵付けの体験など伝統文化の豊かさと多様さに
ふ にほんぶんか しんずい りかい きょうとこくさい でんとうてき とし めば
触れることで日本文化の真髄を理解するとともに、京都国際マンガミュージアムでは伝統的な都市に芽生えた
きんだいてき さんぎょう いったん べんきょう
近代的な産業の一端についても勉強することができました。

なら きょうと にほん れきし は じゅうよう やくわり がくせいたち じっさい げんち おとず けんぶん
奈良・京都が日本の歴史で果たしてきた重要な役割を、学生達は実際に現地を訪れて、見聞したことにより
ぐたいてき けいけん にほん しぜん ぶんか れきし りかい いっそうふか にほん
具体的に経験をすることができました。日本の自然、文化、歴史への理解を一層深めることができて、日本への
あいちゃく いっそうはぐく おも けんしゅうご がくせいたち けんしゅう まな
愛着を一層育むことができたことと思われまう。研修後に、学生達は、グループレポートとともに、研修で学ん
こじんほうこくしょ ていしゅつ
だことについてまとめた個人報告書も提出しました。

このように、今回の研修は大変有意義なものとなって、期待以上の成果を得ることができ、また、奨学生同士
かんけい いっそうきんみつ しょうらい つな おも
の関係も一層緊密なものにすることができたことは将来に繋がるものであると思われまう。



左から：京町家の中で、町家倶楽部の小針先生のお話を聞く学生達、小針先生のお話を聞きながら京都西陣を歩く学生達、西陣織の職人の方にお話を伺う学生達、京扇子の絵付け体験の様子

学生の感想

【シンガポール男子学生】

京都・奈良は日本の歴史や伝統文化の中心なので、たくさん古い建築物があります。私の母国であるシンガポールの歴史は短いので、京都にあるような古い建築物や文化財をあまり見ることはできません。また小さい国で土地はとても大事ななので、古い建物を取りこわすことが多いですが、最近になりシンガポールの政府は歴史や伝統を保存するために取り壊さずにその地域を守っています。京都は、現在、そして未来の人たちに文化や歴史を教えるために古い建築物を守り、また建築物によっては昔の荘厳な雰囲気伝えるために改築したりしているの、とても良いと思います。

【ミャンマー女子学生】

錦市場が印象的でした。京都の多くの食べ物を見て何を買おうかとまよいながら、味を見るために色々なものを少しずつ楽しみに食べてみました。たとえば、タコのお刺身を買ったら、レモン汁をかけて食べ歩き用の小さな紙に乗せて出してくださいました。京都の人達が自分の家で使うための野菜や魚を売ったり買ったりしている市場なので、この時間は本当に日本の生活に直接触れられた経験でした。

【カンボジア女子学生】

奈良と京都のお寺の建築は主に中国から伝えられ、木造建築物が多く存在していることを学んだ。京都では、禅宗の影響を受けたお寺も多く作られていた。また二条城で印象的だったのは、キュッキュッと鶯が鳴くように設計されている鶯張り廊下であった。この音は不正侵入を防ぐための仕組みとして造られたようである。お城の回りにあるお濠も昔ならではの発想だと思った。実はこのような建築はカンボジアのアンコール遺跡にもある。外からの敵が簡単に侵入できないように、造られたのではないかなと思う。

【インドネシア男子学生】

小針先生のお話で印象的だったのは、京都に古い物を残すだけではなくて使いつづけるほうがいいということです。確かに残っている古い物はそのままの状態なら価値がないし、だんだんその物自体が失われていく場合もあると思います。一方、使い続けるとその物の価値が保たれる上に使う人々がその物を維持していくと思います。従って、その物が失われることはありません。インドネシアに小針先生のような人々の姿があったらありがたいです。政府と協力して伝統的な文化を維持したらとてもいいと思います。私も自分の国、インドネシアの文化を日本のように取り扱いたいです。

【マレーシア女子学生】

大徳寺大仙院の枯山水のお庭は、小石で波のように書かれ、大きい石を動物に見立て庭全体が生きている絵のように表していた。またここで座禅の体験をし、お坊さんの法話を聞いた。座禅は、姿勢を正して座ることによって自分本位の欲望を離れ、限りなく素直で清浄な心を得ようというもののだそうだ。私は実際やってみると最初は足が少し痛かったが、姿勢を直して段々リラックスすることができた。お坊さんのお話について「今頑張らないといつ頑張るのか」という言葉に引かれた。今後も若いうちに頑張りたいと思う。

【タイ男子学生】

京都・奈良の伝統・歴史を実際に見て、日本人が今までどれだけ京都・奈良を大事にしてきたか納得しました。そして、私に新しい物の見方を引き起こしてくれました。それは、中立の立場で物を見るということです。一つの物事にはちゃんとした理由があるので、最初から決めつけしないで、両方の立場を考えた方が物の見方が広がると思いました。これによって好きになったことがたくさんありました。例えば、僧侶の修行について掃除をすることが身も心も清める修行だと知りました。自分も掃除をすることによって悟りの道へ近づけると分かって、掃除が好きになりました。

こくさいりかいこうざ

国際理解講座(インドネシア・タイ・カンボジア)

へいせい ねん がつ にち ど

【平成24年11月17日(土)】



写真：左からインドネシア、タイ、カンボジアの学生による発表の様子、右は民族衣装を着て発表をした学生達の集合写真

こくさいりかいこうざ

こうえきざいだんほうじんしんじゅくみらいそうぞうざいだん きょうさい

「国際理解講座(インドネシア・タイ・カンボジア)」を、公益財団法人新宿未来創造財団と共催して、グローバル・エデュケーション・チーム(GET)の協力のもと、しんじゅく多文化共生プラザにて実施しました。まず、インドネシア(2名)の学生が、インドネシアにおける独特な美しい海岸の観光地というテーマについて海岸を3つのカテゴリー(文化海岸、パノラマ海岸、スポーツ海岸)に分けて、写真を多用しながら紹介しました。次に、タイの学生(3名)が、「日・タイ相互理解」のテーマのもと、ロールプレイを通じて、王室及び仏教に焦点を当てながらタイの文化を日本文化と比較しながら紹介しました。最後に、カンボジアの学生が観光DVDを流した後、「カンボジアの特産品、ライフスタイルについて」と題して、カンボジアのお料理やお菓子、カンボジア特有の移動販売などについて紹介して、さらに交流会のために作ってきたかぼちゃプリンの作り方も説明しました。後半は、学生が用意してきた東南アジアのお菓子を囲みながら、参加者との交流会を行いました。

週末ということもあり、参加者は40名近くにもなりました。参加者と講師の間で活発な質疑応答が繰り広げられ、事後に行われたアンケート結果にも好意的な意見が多数寄せられました。特に実際にその国の学生が紹介したこ

とにより、一層身近に感じてもらうことができたのと同時に、ユニークな視点からの文化についても触れることができたようです。パワーポイント資料のわかりやすさ、民族衣装の華やかさ、お菓子の独特な嗜好についても評判が良かったです。学生にとっては、プレッシャーも相当あったようですが、高いレベルの文化交流を図ることができ、日本語で発表することに対する自信もついたようです。



写真：交流会で参加者と話をする学生達、右下は各国のお菓子の一部



アスジャ事務局だより



◇◇学生達の様子◇◇

◆◆ 8月～10月 ◆◆

ホームステイに参加した国費留学生には、日本の新しい友達が増えた様子。那須甲子ボランティアに参加したアスジャ奨学生、国費留学生たちは、屋外の作業や交流活動で汗を流しました。アスジャの奨学生たちは、10月の日本生活体験研修とその勉強会の準備のため、何度もオフィスに来て日本の歴史や文化についての勉強をスタッフと一緒に頑張りました。

◆◆ 11月 ◆◆

アスジャ奨学生の多くが修士論文の追い込みの時期を迎えました。これまでの学習の集大成を作り上げる作業に、学生達も真剣な様子。アスジャ・スタッフにも緊張感が伝わってきました。日本語で論文を書く学生も多く、中には日本語と英語の二ヶ国語、または日本語と母国語の両方で仕上げる学生も。大変な仕事ですが、今後の自信につながりそうです。

◆◆ 12月 ◆◆

今年は、年度末の活動報告DVD作成に国費留学生も参加してくれています。カンボジアとミャンマーの学生は、研究の合間に何とか時間を作って取り組んでくれている様子。インドネシアの学生は、二度も時間を作ってアスジャ・オフィスに来て作業をしてくれました。アスジャ奨学生についても、国費留学生についても、彼らの作品を見るたびに、それぞれの国で培った自由な芸術性に感動させられます。アスジャの活動を通して得た友達や経験、思い出が、手作りのDVDを通して皆の心にいつまでも残ることでしょう。

◇◇今後のスケジュール◇◇

【2013年】

- < 1月 > ・10月期新国費留学生オリエンテーション
(20日、於:東京日本語教育センター)
・国際理解教育(21日)(於:東戸山小学校)
- < 3月 > ・研修合宿(1日～3日、於:国立女性教育会館)
・アスジャ・インターナショナル理事会*
・アスジャ奨学生修了式+活動報告会*
(* 22日、於:新宿京王プラザホテル)

◇◇編集後記◇◇

学生達もスタッフも、たくさんの活動を駆け足で頑張ってきたせいか時間があっという間に過ぎていきました。そんな中でも、学生達が日本について、また自分の国について学んでいく姿を見ることができています。これからの活動も実り豊かになっていくものと楽しみです。

次号(25号)は2013年4月に刊行予定です。ASJAニュースレターに関するご意見、ご要望、など皆様からのお声を、ASJAニュースレター編集担当村上までメール(info@asja.gr.jp)にてお聞かせください。

◇◇足達彩元職員の退任のご挨拶◇◇

2012年8月に退職致しました足達彩です。昨年から育児休暇を取らせていただいておりますが、保育園が見つからないという理由と育児と仕事との両立が難しいという理由から、この度退職という道を選ばせて頂きました。

私がアスジャで働き始めたのは2001年9月からでした。早いもので11年近くになります。ジャスカの学生、そしてアスジャの第一期生からアスジャ国費留学生まで、たくさんの留学生と関わりあうことができ、本当に幸せな11年間でした。

アスジャでは、学生たちの日本文化理解の為の勉強と一緒にしたり、進学指導を行ったり、悩み相談に乗ったりと家族のように接することができました。様々な国から来た何十人という学生と関わりあっていく上で、時には理解できないことやぶつかりあうこともありました。しかし、単なる職員と留学生という立場ではなく、1人の人間として関わっていくことによって、そのような困難をも乗り越えることができたと思います。そしてアスジャの学生たちとの絆が私にとって何よりもの財産となりました。このような仕事に就くことができ、本当に感謝しています。

また、ジュニアプログラムを通してASEAN各国の中学生の素朴さや可愛さに触れることができました。アスジャの仕事を通して、何百人もの海外の中学生が日本文化に触れ合う機会のお手伝いできたこともアスジャの仕事の素晴らしさだと思います。いつの日か彼らが日本に留学してくれることと信じております。

そして何よりも、この仕事の素晴らしさは、ASEAN各国の帰国留学生会の方々と知り合えたことです。帰国留学生会の方々は、各国で日本文化を広める活動をしているだけでなく、ASEANの横のつながりも大切にしつつ、日本とASEANの友好な関係構築に尽力されています。2年に1度開催されるASCOJA総会には各国の元日本留学生が大勢集まります。この総会に参加する度に、こんなにも大勢のASEANの方々が日本を好きでいて下さり、日本文化を広めるために各国で奮闘して下さっているということを感じ、心から感銘を受けました。このことが日本人にあまり知られていないことが残念です。ASCOJAや各国の帰国留学生会は日本にとってとても大切な存在であり、これからも日本との懸け橋でいて下さることを願って止みません。

アスジャの学生たちもきっとどこかの国にいても、同じように日本を愛し、日本の文化や素晴らしさを伝え、日本との懸け橋となってくれることと信じています。

アスジャはとても小さな団体であり、草の根のようではありますが、日本とASEAN、或いは世界平和に貢献するような大きな仕事に携わることができたと思います。

最後になりましたが、外務省、日本学生支援機構、その他関係者の方々、そしてアスジャ理事、ASCOJA関係者の方々、佐藤事務総長、アスジャ職員の方々に深くお礼を申し上げます。長い間大変お世話になり、有難うございました。